

「差異」に出合わせる発問で、生徒を主体的にし、深い学びに誘う

資質・能力を育成する授業、すなわち「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、教師に求められることは何か。また、そのような授業における評価は、どのように進めていけばよいのか。

「主体的・対話的で深い学び」を授業で追究している2人の教師と、子どもの学習プロセスについて研究している研究者が語り合った。

生徒が自分で考え、表現する場を設ける

柏木 まずは、資質・能力を育成する授業という視点で、どのような授業を「実践されているのか、お聞かせください。

美那川 私は、深い学びは主体的で対話的であるからこそ実現するものだと考え、授業づくりをしています。担当科目は世界史ですが、歴史は「資料（史料）を読み、考えて、書く」として研究を深めてきた分野です。「考える」とは、歴史的事象を時系列で分析したり、因果関係を読み取った

り、ある時代の文脈から事象を捉えたりすることです。その際、1人で考えるよりも、グループで対話をした方が多様な視点が出て、学びが深まります。ですから、生徒が問いに

対する解答をつくるために、教科書などで調べ、グループで対話しながら考えを深め、最後に自分なりの答えとなる文章を書くという授業を行っています。そうした学びのプロセスを経ることで、おのずと資質・能力が育まれていくと考えています。

柏木 それは、まさに「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を働かせる授業かと思いますが、前任校の進

学校と現任教と授業に違いはあるのでしょうか。

美那川 根本的には同じです。違いは、現任教では生徒の半数が卒業後に就職するため、大学入試で必要とされる知識を身につけるよりも、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力、市民性などの育成を重視している点です。異動して約4か月ですが、生徒の論述を見ると、「資料を読み、考えて、書く」力は着実に育ってきていると手応えを感じています。

柏木 田中先生はどのような授業をされていますか。

田中 私は、授業こそ生徒が力を



関西大学
教育推進部教授
森 朋子
もり・ともこ

専門は、学習研究、学習理論、教育方法学。島根大学教育開発センター長等を経て、現職。

ける場となるよう、最初に問いを出し、生徒が考え、表現する場を設けるよう授業改善を進めています。教師の話を聞いて、板書を書き写すだ



静岡県立御殿場高校
美那川雄一
みながわ・ゆういち

教職歴 14 年。同校に赴任して1年目。担当教科は地理歴史(世界史)。情報研修課。

静岡県立御殿場高校

- ◎3つの専門科から成る実業高校。2年次から希望進路や適性に応じたコースに分かれる。緊急携帯食の開発とその取り扱いDVDの製作など、3学科の協働による産学・地域連携を行っている。校訓は「質実剛健にして美しく」。
- ◎設立 1901(明治34)年
- ◎形態 全日制/情報システム科・情報ビジネス科・情報デザイン科/共学
- ◎生徒数 1学年約200人
- ◎2017年度進路実績(現役のみ) 4年制大は、山梨大、日本大などに23人が合格。短大、専門学校進学62人。就職104人。
- ◎URL <http://www.edu.pref.shizuoka.jp/gotemba-h/home.nsf>

けでは、家庭学習を余程自分でうまく進められる生徒でない限り、力はつかないと思うからです。授業づくりで留意しているのは、まず、生



岡山県立倉敷青陵高校
田中誠一郎
たなか・せいいちろう

教職歴 23 年。同校に赴任して3年目。担当教科は国語。進路指導課主任。

岡山県立倉敷青陵高校

- ◎学校経営目標に「高質な学力の養成」を掲げ、「知徳体」の円満な発達を図る「文武不岐」を重んじる教育を推進。2017年度、岡山県「アクティブ・ラーニング推進委員会研究協力校」。
- ◎設立 1908(明治41)年
- ◎形態 全日制/普通科/共学
- ◎生徒数 1学年約320人
- ◎2017年度入試合格実績(現浪計) 国立大は、東京大、京都大、大阪大、岡山大、九州大などに246人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ440人が合格。
- ◎URL <http://www.seiryo.okayama-c.ed.jp>

徒に育みたい力を明確にすることで。担当教科の国語は、「授業で何を学んだか」と聞くと、作品名を挙げる生徒が大半であり、生徒が授業で身につけた力を自覚しにくい教科だと思っています。そこで、例えば、「他者意識を持って論理的に発表する力」など、身につけさせたい力を授業の目標として立て、それに基づいた授業づくりをする。そして、授業における生徒の様子から活動の成果を検証し、次の授業に生かすということを繰り返して、資質・能力を育む授業のあり方を模索しています。

授業中のアウトプットが 生徒の学びの質を高める

森 お二人とも、何を教えるかだけではなく、生徒に身につけさせたい資質・能力を明確にした上で授業づくりをされており、その目標の実現のために生徒が主体となる活動を取り入れられています。生徒の様子は、



『VIEW21』高校版
編集長
柏木 崇
かしわぎ・たかし

以前と変化は見られるでしょうか。
田中 本校の生徒は、講義型の授業でも自分で考えを深められると思いますが、グループ学習を取り入れたことによって、他者の考えを聞いた上で自分の考えを整理できるようになり、さらに考えを深められているようです。私の場合、生徒が自分で表現して初めて力がつくと考えて、生徒に解答を板書させて全体の中で添削をすることはありますが、教師の模範解答はほとんど示しません。生徒から不満が出るだろうと予想していましたが、生徒が考える時間を十分に設けたためか、「自分の考えを深めてから解答できたのがよかった」といった声が上がっています。教師の模範解答よりも、他者の意見を踏まえ自分で考えることが学びになると、生徒自身も実感しているようです。
美那川 1学期の終わりに生徒にアンケートを取ったところ、「授業がよく分かる」「楽しくて、集中できます。本校の生徒は、教師の話をしっと聞くような授業があまり得意ではありません」から、グループ学習を中心とすることで、前向きに学びに取

り組んでいると感じています。

森 生徒のアウトプットの機会を授業中に多く設けることで、授業の進め方も変わったのではないのでしょうか。

田中 生徒が学習内容をどの程度理解しているのか、どこでつまづいているのかといったことが把握しやすくなり、授業を進めながらも、生徒の状態に応じて指導を変えるようになりました。

美那川 私も、生徒がグループ学習をしている間は机間巡視をして、生徒たちの対話を聴き、書いた内容をチェックして、その後の授業展開を考えます。私は講義型の授業があまり得意ではなく、初任当時は準備してきた内容を話すだけで精いっぱいでしたが、今は生徒を丁寧に見取った上で授業ができています。

森 これまで定期考査や小テストで確認していたことを授業中に把握できるようにすることは、生徒の学びの質を高める上で重要です。生徒の課題に早めに対応できるだけでなく、理解が十分であれば進度を速めて、さらにレベルの高い学びを提供できます。主体的・対話的で深い学びは、生徒・教師双方に利点があると思います。

「差異」に出合わせるための大きな問い

柏木 お二人とも「問い」が生徒の学びの起点となっています。「問い」づくりの工夫をお聞かせください。

田中 どの生徒も考えられるようにと、問いを小刻みに出して、最終的な考察に結びつける方法があります。それは教師が生徒の思考を誘導することになります。そこで、私は、単元の目標について生徒が自ら考えられるような大きな問いを立てています。ポイントは、「差異」を生じさせるような問いとすることです。自分と他者の違い、過去の自分と今の自分の違い、筆者と自分の違いなど、多面的・多角的に差異に出合い、メタ認知(＊1)できれば、自ら考えを深めていくことができます。

例えば、現代文で、教訓めいた話ではない、ささやかな日常の一場面を描いた短編小説を読み、「文学の価値」を考察する授業を行いました(図1)。まず、自分が今までに読んだ文学の中で最も印象深い作品を振り返った上で、自分にとって「文学」とはどのような存在なのかを考えさせ

図1 田中先生の授業プリント 2年次現代文 単元名「文学は何のためにあるのか?」

「全く正解の見えないオープンエンドの問いでは、答えが多様であっても差異を感じられず、『いろいろな意見があるよね』で終わってしまいます。正解が1つではなく、かつ複合的な差異が生じるような問いを考えることが、授業準備の大半を占めます」と、田中先生は語る。

最初に、自分の経験を踏まえた上で「文学の価値」を考えさせる。次に作品を読解し、グループで意見交換をした後に、再び「文学の価値」を考えさせる。考えを書いて残しておくことで、自身の考えの変容が分かるようにしている。

* 田中先生の提供資料をそのまま掲載。指導計画はP.12 図3参照

* 1 自らを俯瞰的・客観的に捉えること。

図2 美那川先生の論述課題、発問、ルーブリックと生徒の解答例

論述課題		
大航海時代は、人類にとって、「よかった」のか「悪かった」のか？		
知識を学ぶための発問		
15世紀以降、大航海時代が始まった。大航海時代により「利益を得た」人々や地域と、「不利益を被った」人々や地域について調べよ。	A	
A 文字資料（教科書、用語集など）からそのまま抜き出す B 文字資料を書き換える（歴史用語の意味を簡潔にまとめる） C 文字資料を再構成する（複数の資料から文章を取り出し、合わせていく） D 知識を基に考察して論述する E 非文字資料（地図・絵画・統計など）を読み取り、論述する		
ルーブリック		
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現
3 発展的・深い学び	<ul style="list-style-type: none"> 大航海時代が、現代の世界の様子とどのように関連しているのかについて考察する。 大航海時代について、「～だったのではないか？」のような新たな疑問を生み出し、論述する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大航海時代について、広い視野から考え論述する。 大航海時代が人類の歴史にとってどのような意味を持つのか、具体的に歴史的事象を根拠として挙げて自分の考えを論述する。
1 表面的な学び	<ul style="list-style-type: none"> 大航海時代に「利益を得た人」「不利益を被った人」についてまとめているだけである。 大航海時代を現代の世界や自分自身と結びつけて考察することが表現されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 大航海時代について、一面的な部分からしか考えることができていない。 大航海時代が人類の歴史にとってどのような意味を持つのか、自分の考えを論述しているが、歴史的事象が不正確であったり、不十分であったりするため説得力に欠ける。
0	<ul style="list-style-type: none"> 論述しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の意味が不明瞭である。

生徒の解答例

■利益

- 17世紀末にイギリスがアジア貿易の主導権を握るようになった。
- ヨーロッパがアジアで植民地を始めた。
- フランスがヨーロッパで高値で売れる毛皮取引を行った。
- イギリスの奴隷商人は、アフリカの支配者たちから、武器や雑貨と引き換えに黒人奴隷を買い、北アメリカ南部の経営者に売っていた。

■不利益

- 北アメリカにあるアステカ王国と南アメリカにあるインカ帝国が減ばされた。
- 征服者は国王から許可を得て、先住民に納税や労働を強制し、農場作業で酷使した。
- ヨーロッパ人が持ち込んだ天然痘、はしか、チフス、ペストなどの疫病で先住民が減少。
- 上記により、イスパニョーラ島は16世紀末に滅亡。
- アフリカから黒人奴隷として多くの人が運ばれたため、大量の人口を失い、発展に影響。

■論述

私は悪かったと考える。理由は、大航海時代に得た利益と、不利益の重さがあまりにも違いすぎたから。利益としては、イギリスがアジア貿易の主導権を握ったり、高値で売れる毛皮を得たり、黒人奴隷をアフリカからアメリカに売ったりと、お金に関する利益（一時的なもの）が多いと思った。一方、不利益は、アステカ王国やインカ帝国が減ばされたり、先住民が酷使されたり、アフリカでは奴隷により多くの人口を失った。そして、この不利益は、現代のアフリカの発展途上国の多さや、アメリカの黒人差別にも大きく影響していると思う。すべてが悪いことではないが、同等な関係ではなく、支配という形で進出したことは誤りだったのではないかと思った。

*美那川先生の提供資料を基に編集部で作成

せませす。そして、作品を読み、その作品が文学である理由をグループで話し合い、最後に「文学の価値」を考察させます。実は、2つめの問いと最後の問いの答えを対比できるようにしています。生徒に自分が書いた2つの答えを読み比べさせると、自分の考えの変容に驚き、さらに考えを深めていきます。「考えて終わり」ではなく、書いて視覚化させて

おくことで、自己内の差異をメタ認知させ、深い学びを促しています。美那川 私も田中先生と同じように、大きな問いを最初に提示します。その問いとは、グループ学習しても答えが1つに絞れず、生徒の中にもやもや感が残り、授業後も考え続けてしまうような問いであり、その問いを考えるために知識を学ぶというのが授業の流れです(図2)。

例えば、「大航海時代はよい時代なのか、悪い時代なのか、歴史家になつて判断しなさい」という大きな問いを出します。そして、その問いを考えるための知識として、大航海時代に利益を得た人と不利益を被った人を調べさせます。そういった知識を学んだ上で考察させると、「アジアから欧州やアメリカに商品が出回り、国際経済が生まれたからよい

時代」という生徒もいれば、「ヨーロッパによる植民地化が進み、搾取が起きたから悪い時代」と答える生徒もいます。同じ資料を調べても、多様な意見が出ることで、生徒は自ら深く考えるようになります。

単元目標を起点とした授業デザインが重要

森 多様な意見を出させて共有する

点で、美那川先生の問いも「差異」に出合わせることでポイントになっています。ただ、大きな問いになると、教師の想定外の答えが出てくることも多いのではないのでしょうか。

田中 あまりにも趣旨から外れる答えはこちらで軌道修正しますが、多少ずれても、結果的に考えさせたかったことを生徒が考えていけば問題は無いと思っています。理想は、思わぬ答えが出てきても、自然に軌道修正されるような力を持つ問いを立てることです。

美那川 本校の場合、想定外のことが起きる要因は2つあります。1つは教科書や資料の読み込み不足で、この場合は生徒が該当箇所気づくように声をかけます。2つめは問い



田中誠一郎

自分と他者、過去と今など、
差異に出合い、メタ認知することで
自ら考えを深めていく

の理解不足に起因するものですが、それは教師の発問力の結果です。あのクラスでうまくいっても、別のクラスでは反応が異なることがありますから、生徒の様子を見取って授業ごとに発問の仕方を調整しています。

森 先生方のお話を伺って、授業デザイン原則が浮き彫りになったと思います。単元や題材のまとまりにおける目標が明確に伝わる大きな問いを授業の最初に提示し、その問いを考える中で自分との「差異」をメタ認知させ、問いの答えに到達するために必要な学びを通じて、資質・能力が身につけていくということだと思います。私は、その差異を認知させる方法として「予習」に注目しています。単元や題材全体を予習しておく方が、翌日の授業に合わせて一部だけ予習するよりも、生徒の学びが活性化することが、研究で分かっています。予習で全体をおおまかにつか

み、授業でそれを再構成することは、知識の内化(*2)を促し、理解度を高める傾向にあります。そのため、予習を有効に用いれば、生徒の学びはさらに深まると考えます。

生徒の学びや授業改善に生かせるような評価を

柏木 今後は、授業等で育む資質・能力をどのように評価していくのかについても考える必要があります。そこで、評価に関する「実践を教えてください」。

美那川 私の場合、「資料を読み、考えて、書く」授業ですから、評価規準は、「歴史用語をどれだけ覚えてるか」ではなく、「資料を正確に読めたか」「どのように読み取って、考えたか」といったことになり。どの単元でも生徒個々に論述をさせ、それをルーブリックを用い

図3 田中先生 2年次現代文の指導計画 (抜粋)

国語科(現代文)学習指導案	
西山国立教育院高等学校 普通科 2年 組 2- HR教室 指導者 田中 誠一郎 平成29年 月 日 ()	
単元(題材)	文学は何のためにあるのか? (読書感想『精選現代文』川上弘美「水がまきり」, 加藤周一「文学の仕事」)
目標	○自分にとっての文学の価値について考察し、主体的に価値づけようとする。(関心・意欲・態度) ○作者の意図や表現の工夫の観点から小説を味わうことを通じて、人間にとって文学がどのような価値をもつのかについて考察することができる。(読む能力) ○語句の意味、意図を的確に理解した上で、「象徴」や「回想」、「オノマトペ」といった文学的な表現の特色をとらえることができる。(知識・理解) ○生徒の実態 文学的な文章について、深いと華麗な言葉や含蓄のある動作など、自己の生活体験(疑似体験も含む)から的確にくい心像を、単純化して理解してしまう点にやや課題があるもの。登場人物の言動を的確に理解することや心情変化を文脈に即して捉えることはできる。さらに、読書経験の多寡は顕著であり、小説を読むことへの意味づけが、「授業や試験の一環であるから」とのみという生徒も少なくない。活動に対する反応は非常に良く、授業中の態度も極めて積極的であるため、可能な限り生徒の主体的な表現を中心にしつつ、特に小説における「象徴」の意味等に気付かせることで、人間にとっての文学の価値について考察させたい。
指導上の立場	○題材(単元)観 「水がまきり」は、プロ野球選手として挫折した青年が幼さの残る無垢な少女との交流を通して再生していく物語である。序で河原を散歩する場面が示され、登場人物の抱える問題が回想された後、展開部で状況、場面の変化が描かれ、末尾で登場人物の変容が暗示されるという展開小説の王道の展開を辿っており、ストーリー性も強固ではないが、読者のものを定義するものであって、目的達成のための手段ではない」と主張する評論文「文学の仕事」を併せて扱う。 ○本題材(単元)で工夫する点や手立て 本単元では、評論文「文学の仕事」を重んじて読むことで、より重層的な「文学の価値」についての考察を促すことを意図している。さらに、思考の流れに沿って自分の意見を整理するための「シンクシート」を用いることで、自己の思考の整理の可視化を図るとともに、他者との意見の交流を容易にし、積極的かつ深い考察に期待したい。
指導と評価の計画	主たる学習活動 具体的な評価規準(○)と評価方法 第一次 ……2時間 第1時 文学の価値について考察するという課題への見直しをもつ。「水がまきり」を読み、前半の意図や表現の工夫についてグループで考察する。 第2時 前時の考察をまとめた記述を、他のグループで相互に読み合い、考察を深める。文学の価値について考察した文章にまとめる。 第二次 ……2時間 第1時 「文学の仕事」を読み、筆者の主張についてグループで話し合う。 第2時 前次第2時の「文学の価値」について各自のまとめを繰り返す。(本時)

* 田中先生の提供資料をそのまま掲載

て評価しています(P.11図2)。生徒には事前にルーブリックを見せて、盛り込むべき観点を認識させた上で、課題に取り組みさせています。さらに、ルーブリックを基に生徒同士の相互評価もさせています。しかし、それは成績評価には反映させていません。生徒が他者の論述を読み、自分の論述をよりよく書くための評価という位置づけです。他者の考えに触れ、自分を振り返ることによって、よりよい考えを導けたといった経験を積み重ね、社会人になって多様な人と仕事をしていく際も、必ずその経験が生きてくると期待しています。

田中 授業中の生徒の様子を評価することは、教師にとっては指導改善に、生徒にとっては次の学習に生かせるので、積極的に行っていますが、必ずしもそれを記録して評定に反映することは意図していません。授業中の生徒全員の様子を教師1人で記録することは、現実的に不可能だからです。評定をつけるための評価はできるだけシンプルに単元目標に照らした達成度を測るようにし、例えば生徒が書いたワークシートを基に評価します(図3)。

森 評価は、成績をつけるという側面だけでなく、生徒が次の学びに

* 2 外にあるものを自分の認識下に取り入れること。



資質・能力は特定の教科だけで育まれるものではないからこそ、学校全体で指導や評価を分担する

森 朋子

進むための学習支援の側面もあります。生徒主体の活動として、そこから、生徒の自己評価が重要です。グループ学習によって知識を外化（*3）しているため、振り返りによる内化が有効なのです。与えられた評価（他者評価）を振り返るだけでは、「自分はこれできていないから、次はこれを頑張ろう」という意欲に結びつかないこともありま

す。また、自己評価を重ねることで、評価眼が鍛えられ、生涯学び続ける姿勢につながります。先生がつけた評価が自分の評価のすべてではないことを、生徒自身が理解することが大切ではないでしょうか。

柏木 評価方法の理解が進んでいないために、観点別評価が浸透しないと言われています。

森 毎授業、学習評価の3つの観点のすべてを測ろうとせず、単元や題材のまとまりの中で、学習・指導内



他者の考えに触れ、自分を振り返ることで、よりよい考えを導けたといった経験は社会で生きる

美那川 雄一

容と評価の場面を適切に組み立てていくことが重要です。知識・技能は可視化しやすく、判断力や表現力はルーブリックなどによって測れますが、思考力や主体的に学習に取り組む態度は、内面的なものであり、測るのが難しい。さらに、知識・技能は各教科・科目で身につくものですが、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力は、特定の教科・科目だけで育まれるものではありません。学校行事や部活動なども含めた様々な教育活動で分担をして、資質・能力を育み、評価するのがよいと考えます。

大学入試が変わる今こそ 授業を見直すチャンス

柏木 先生方のお話から、授業づくりや評価においても、教科全体、学校全体で進めることが重要であることが、浮き彫りになりました。

田中 様々な考えを持つ教師が集まる学校で、指導の足並みをそろえていくよりどころになるのは、大学入試を超えたところにある、生徒に身につけてほしい力でしょう。国語であれば、生徒が「高校時代に勉強したのは『羅生門』です」と答えるような授業にはしたくないはず。それならば、国語の授業で身につけたい力を明確にし、その力が身についたのかを測りながら授業改善を図っていく。その力を育むためにアクティブ・ラーニング（以下、AL）が有効だと思うならば取り入れたいという考えで、授業づくりを進

進めていけばよいのではないのでしょうか。

美那川 私は、前任校で研修主任を務め、1年間をかけてALの浸透を図りました。1日のうち1教科の1時間だけALで、残り5時間が講義型の授業では、生徒の力は伸ばしきれず、一方で各教科でできることも異なります。高校3年間で育てる生徒像を明確にし、各教科や学校行事、部活動などが相互補完的な役割を果たし、学校の教育活動全体で生徒を育てていく。大学入試が資質・能力を測るものになろうとしている今こそ、指導を見直し、自校の特色を打ち出すチャンスだと思います。

森 今後、大学入試改革が進むことで、各大学は自学の求める学生像に応じた入試を行うようになるでしょう。そうならば、生徒が自分のよさを生かせる入試形態を選べるようになり、高校でも生徒に身につけさせたい資質・能力に独自性を打ち出しやすくなります。今、大学が学生に求めているのは、多様な学力です。自校の学校教育デザインを基に、生徒に多様な資質・能力を育んでいく授業づくりを進めていただければと思います。

* 3 習得した知識・技能を活用して問題解決を試みること。